

令和2年度 第1回福岡市肢体不自由特別支援学校形態食検討委員会 議事録

1 日 時 令和2年11月17日(火) 15:00~16:30

2 場 所 福岡市発達教育センター 福岡市中央区地行浜2丁目1番6号
第2研修室

3 議事

- 議題1 肢体不自由特別支援学校における現状と課題について
- 議題2 北九州市立小倉総合特別支援学校視察報告
- 議題3 今後の検討の進め方について

4 出席者 ○福岡市立特別支援学校の校長・教職員

板谷委員長・釘宮委員・江島委員・前田委員

菊地委員・重岡委員・宮園委員・加藤委員

○福岡市立特別支援学校の保護者代表

因幡委員・春日野委員

○専門職

緒方副委員長・浅田委員

○教育委員会・事務局

給食運営課長 杉本委員

安元栄養係長・藤田係員・渡部係員

5 傍聴者 0人

6 議事録(要旨)

(1) 委員長・副委員長の選出について

委員長に今津特別支援学校長の板谷委員, 副委員長に歯科医師の緒方委員が選出された。

(2) 傍聴人について

傍聴希望者はいなかった。

(3) 議題1 肢体不自由特別支援学校における現状と課題について

資料1に基づいて前田委員から説明があり, 委員から次の質問等があった。

(委 員) 質問が2点ある。1点目は現在の児童生徒の口腔機能はどのような状態か。2点目は小学校後半から口腔機能が落ちてくる児童が多いが, そのような児童はどのくらいいるか。

- (委 員) 1点目について、口腔機能について数は今手元になく分からないが、重度の児童生徒が多くなっている印象がある。食べることが難しく、誤嚥性肺炎を起こす事例もある。胃ろうの児童生徒も多くなっている。2点目については、はっきりと数は把握していない。
- (委 員) 全体的に押しつぶし食が多いのか。
- (委 員) 今津特別支援学校では、押しつぶし食以前のペースト食が10数人、中期が10数人、後期が10数人いる。
- (委 員) 食形態も重要だが、評価できる体制づくりも必要と考える。
- (委 員) 食形態の評価をコンスタントにさせていただくと有難い。6年生の子どもは、喃語を話すようになり、食のバリエーションが増えてきた。大きいものを無理に食べようとすることもある。
- (委 員) 子どもは中期の食事だが、食材によって適するかたさや大きさが違う。家庭ではいかに安全に食べるかが課題であるが、学校と連携できればと思う。就学前と就学後で給食に差があるように感じる。就学前の成長がつながらずに止まってしまう。個人個人への対応を望む。

(4) 議題2 北九州市立小倉総合特別支援学校視察報告

資料2に基づいて事務局から説明があり、委員から次の質問等があった。

- (委 員) 悩むのが押しつぶし食であるが、さつま汁の具が気になる。汁ものは誤嚥しやすいが、具と汁を別にしていたのか、汁もあわせてあったのか。
- (委 員) (資料2にある写真の)プレート右下の3つの点が入っているものがさつま汁である。
- (委 員) さつま汁は汁にとろみがあり、にんじんは押しつぶせるもので、汁と具は混ぜてあった。
- (委 員) サラダ類も誤嚥しやすいがどのようにしていたか。
- (委 員) 当日サラダはなかった。
- (委 員) 北九州市のお茶ゼリーは良いと思う。空嚥下ができない児童生徒の口の中をきれいにするのに良い。食器はどのように用意されていたのか。
- (委 員) スプーン等の食具は各自準備されていて、食器は給食室から提供されていた。
- (委 員) ランチルームがあるのが福岡市と違う点だが、食形態の見本が置いてあり、試すことができるのは良いと思う。
- (委 員) 調理業務員が17名と多いが、これだけの形態食を調理するにはこの程度の人数が必要か。
- (委 員) 時間帯により人数が異なり、最大が17名である。
- (委 員) 給食室で全て調理していたのか。
- (事務局) 全て給食室で調理し、個別にはミキサーや増粘剤で対応していた。

(5) 議題3 今後の検討の進め方について

資料3に基づいて事務局から説明があり、委員から次の質問等があった。

- (委 員) 検討委員会とワーキングがあり、3月に2回目の検討委員会、4月から形態食スタートとあるが、今津特別支援学校と南福岡特別支援学校は同時スタートか、今津特別

支援学校が先か。

(事務局) 形態食を進める基本的な考え方は変わらないが、各学校の実態に応じて調整する必要があるため、開始時期に差はあっても良いと思う。

(委員) 調理業務員の負担は増えると思うが、増員はあるのか。

(委員) 予算には限りもあるが、より良いスタートが切れるよう、十分検討したいと思う。

(事務局) 衛生面、安全面を確保するために、業務量の整理もあわせて行っていきたい。

(6) その他意見

(委員) 私は噛むことに力点をおいて療育している。幼児期後半から小学校の間に食機能は伸びる。噛んで飲み込むことは健康で楽しい食の基本の一つであり、楽しく安全に発達を支えていく。嚥下を大事にするという視点を持つことが必要である。誤嚥すると長期間にわたって体調を崩していくことも考えられる。

(委員) 食事で大切なことは食形態以外にもある。専門家に学校に来ていただき、口腔機能の評価をしてもらいたい。

(委員) ワーキングの計画は。

(事務局) 現在、今津特別支援学校でゼリー食の検討を計画している。事務局と今津特別支援学校の委員で、実際に試作したゼリー食の出来上がりの状態や、児童生徒の摂食・嚥下の状態を見て意見交換する。時間が調整できれば専門家にも見ていただきたいと思います。

(委員) 各論とは別に、食べるという意味をどこにおくか、評価をどこにおくか、という視点が必要になるのではないかと。

(事務局) 今回は形態食を主とした検討委員会ではあるが、そのような視点も踏まえ、発達教育センターとも連携して検討していきたい。

(委員) 令和3年4月から今津特別支援学校で形態食が導入されると思うが、その後、南福岡特別支援学校で導入する際には、スムーズに導入されるようスケジュール、計画を立ててほしい。

(事務局) 児童生徒にとってよりよい給食にするために、校内の体制を確立して形態食を導入しないと給食と支援はつながっていかないと考える。導入については学校と協議しながら進めていきたい。

(委員) 今津特別支援学校についても、しっかり体制を整えた上でスタートしてほしい。

(事務局) 学校と連携をとりたい。

(委員) 衛生面やおいしく楽しい給食という面からも、ベストな給食を届けたい。